

**2022年3月期**  
**決算説明会資料**  
(決算短信補足資料)

[2022年5月17日開催]

**SMC株式会社**

# 2022年3月期 決算説明会

2022年5月17日

SMC株式会社

代表取締役社長 高田 芳樹

Supporting Automation



## 2022年3月期決算サマリー

販売数量増・ポジティブな為替影響により  
売上高・利益ともに、過去最高を更新

Covid-19からの正常化が進み、製造業の  
設備投資がグローバルに回復

業種別には、半導体および2次電池向けの  
売上が特に拡大

半導体関連を中心とした部品調達難は継続  
しており、リスク要因

設備投資は前年度の3倍を実施し、目標値  
を達成

年間配当は前年度比で1株あたり250円・  
50%の増加、自己株式取得500億円実施  
と併せて、総還元性向50%を維持

(単位：億円)

	2021年3月期 実績		2022年3月期 実績		増減 実績	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	5,521		7,273		1,752	31.7%
営業利益	1,533	27.8%	2,278	31.3%	745	48.6%
当期純利益	1,217	22.1%	1,929	26.5%	712	58.5%
期中平均 為替レート	ドル	106.12	112.39		6.27	5.9%
	ユーロ	123.72	130.55		6.83	5.5%
	人民元	15.67	17.51		1.84	11.7%
設備投資	274		834		560	204.4%
年間配当/株	500円		750円		250円	50.0%
年間配当額	331		492		161	48.6%
配当性向	27.2%		25.5%		-1.7%	-6.2%
自己株式取得額	285		500		215	75.4%
総還元性向	50.6%		51.4%		0.8%	1.6%

# 2023年3月期ガイダンス



引き続き好調な受注動向、為替水準から今期についても、売上高・営業利益ともに過去最高を更新することを予想

半導体および2次電池向けの売上の好調は持続すると予測

半導体関連を中心とした部材調達難による生産の制限が一番のリスク要因

設備投資は売上増加を支える生産能力の確保と生産拠点のBCP対応のため、引き続き増やす計画で、前年度比で4割強の増加、1,200億円を想定

年間配当は前年度比で1株あたり150円・20%の増加を計画し、事業の成長と株主還元を両立

(単位：億円)

	2022年3月期 実績		2023年3月期 ガイダンス		増減 計画	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	7,273		8,050		776	10.7%
営業利益	2,278	31.3%	2,550	31.9%	271	11.9%
当期純利益	1,929	26.5%	1,880	23.4%	-49	-2.5%
期中平均 為替レート	ドル	112.39	123.00		+10.61	9.4%
	ユーロ	130.55	133.00		+2.45	1.9%
	人民元	17.51	18.50		+0.99	5.7%
設備投資	834		1,200		366	43.9%
年間配当/株	750円		900円		150円	20.0%

# 設備投資の加速



(単位：億円)

用途	地域	2022年3月期		2023年3月期	
		実績	案件	計画	案件
製造	国内	228	64 下妻工場 17 釜石工場 18 遠野工場 130 他	461	162 下妻工場 90 釜石工場 84 遠野工場 125 他
	海外	151	102 SMC 中国 18 ベトナム製造 13 シンガポール製造 3 SMC インド 14 他	362	200 SMC 中国 122 ベトナム製造 18 シンガポール製造 8 SMC インド 14 他
本社 開発 販社 物流	国内	368	300 本社土地 62 技術センター土地 6 他	190	40 本社社屋 61 技術センター土地 61 東/西物流センター 28 他
	海外	87	27 SMC ドイツ 21 SMC アメリカ 14 SMC スペイン 4 SMC 韓国 3 SMC トルコ 18 他	187	59 SMC ドイツ 37 SMC 韓国 16 SMC アメリカ 11 SMC トルコ 10 SMC タイ 53 他
合計		834		1,200	



東日本ロジスティクスセンター

天津工場



下妻第2工場



# 当社の強み



## 経営環境／社会の変化

1. 地政学的リスクの顕在化
  - 米中対立の激化、ロシアのウクライナ侵攻
2. 自然災害、パンデミックの頻発
  - 異常気象、地震、Covid-19
3. CO2排出量削減への取り組み進展
  - 自社生産工程・サプライチェーン全体での削減

## サプライチェーン混乱／インフレ進行

1. 原材料価格の高騰：原油・銅・アルミ等
2. 特定部材の調達難：半導体・樹脂等
3. 物流の混乱、輸送費の高騰

## SMCの強み

### 競争力ある製品、幅広い品揃え

- 小型軽量高耐久の省エネ製品群
- ライン全体の省エネルギー化提案が可能
- ワンストップでの製品供給が可能

### 顧客を困り込め、面で勝てるグローバルな営業力

- 80か国以上に約7千人の直販営業人員を配置
- グローバルに蓄積された用途別の豊富な提案力

### 生産・調達ルート多元化、安全なITインフラ

- 部材調達まで遡ったBCP対応の整備
- データセキュリティ対応、データ保有の2重化

### 他社の追従を許さない生産能力、潤沢な在庫

- 設備投資による弛まぬ生産能力拡大
- 短納期を実現する十分な在庫保有

# 22年度施策①：製品供給力拡大とサプライチェーン整備



## 1. 製品生産能力の拡大

- ・新規工場の立ち上げ加速、BCPの観点からの生産拠点の地理的分散促進
  - 国内の下妻・遠野・釜石の各工場での生産能力拡充
  - 天津工場、ベトナム工場の拡充の加速、生産品目の分散
- ・生産の自動化・DX化を進め、自社工場をショールーム化
- ・海外テクニカルセンターの拡充による開発BCP体制構築、海外生産の品質向上

## 2. サプライチェーンの整備

- ・調達力の拡大
  - 遠野サプライヤーパークの整備による協力会社の生産能力・BCP体制の底上げ（別紙詳細）
  - 源流まで遡った調達先の地理的な分散化、海外調達先の新規開拓
- ・製品物流の整備
  - 東西ロジスティクスセンターの整備、倉庫の自動化・DX化
  - 売上が拡大している海外販社のインフラ（物流倉庫・特注品工場）整備

## 3. ITインフラの整備を含めた持続的な製品供給力の構築

- ・システムインフラのセキュリティを含めた万全なBCP整備
  - 「製品の生産・供給がストップしない、安心して取引できる生産財サプライヤー」との評価を勝ち取る

## 22年度施策②：斬新な製品の開発と直販営業戦力の活用



### 1. ゲームチェンジャーとなる斬新な製品の開発・販売

- 省エネルギー製品 + 工場内DXによる統合管理：エアマネジメントシステムを核にした囲い込み
- ロボット関連における空圧の優位性（軽量・強力・低発熱）の徹底活用：小型コンプレッサー

### 2. 省エネ・DX・BCPといった切り口でのトップセールス

- より関心が強いと思われる大規模ユーザーの経営層への販社トップによるセールスの活発化
- 製品個別の販売ではなく、一連の製品群を、ユーザーの関連先全てに供給する面でのセールス

### 3. 直販営業戦力による顧客囲い込み

- 多国籍ユーザーの囲い込み、エンドユーザーによる当社製品使用の指定獲得（グローバル契約）
- 用途別の成功事例のグローバル共有、OEMメーカーの攻略
- 親密既存ユーザーの納入先・協力企業等の紹介による販売機会の拡大（リンケージ）

### 4. ユーザーの多様化

- これまで接点の少ない産業における販売機会の獲得：食品・医療・水・農業等
- 新たな販売ルート（代理店等）の見極め：特定業界に強いOEM・代理店等

## 遠野サプライヤーパークについて



### SMC遠野工場エリアに国内BCP拠点

#### 国内部品調達強化の中核的取組

#### 国内部品サプライヤーと連携した一貫・迅速生産体制の確立

- サプライヤーを遠野エリアに誘致し、BCPを考慮した重要部品を生産
- サプライヤーと連携し、製造DX化、短納期化を実現

#### 主要部品の生産能力拡大

- 遠野エリアへの投資でサプライヤーの部品生産能力を拡大

#### サプライチェーンのBCP強化

- サプライヤー単独でのBCP管理負担を軽減
- 部品の供給を途絶えさせない複数拠点化
- 進出企業以外のサプライヤーにおいてもBCP対応を強化

## 遠野サプライヤーパーク概要①



SMC遠野工場エリア西工区(53,938坪)

- サプライヤー棟：各業種のサプライヤーが進出
- 倉庫棟：サプライヤー用素材、完成品を保管
- 共用棟：生産関連設備の共同利用、福利厚生施設の設置  
行政・周辺企業との連携による地域貢献、ものづくりの魅力PR

2025年春より本格的な運用開始予定  
建設中の遠野第2工場を一部利用し  
先行運用予定 2023年春



外観イメージ

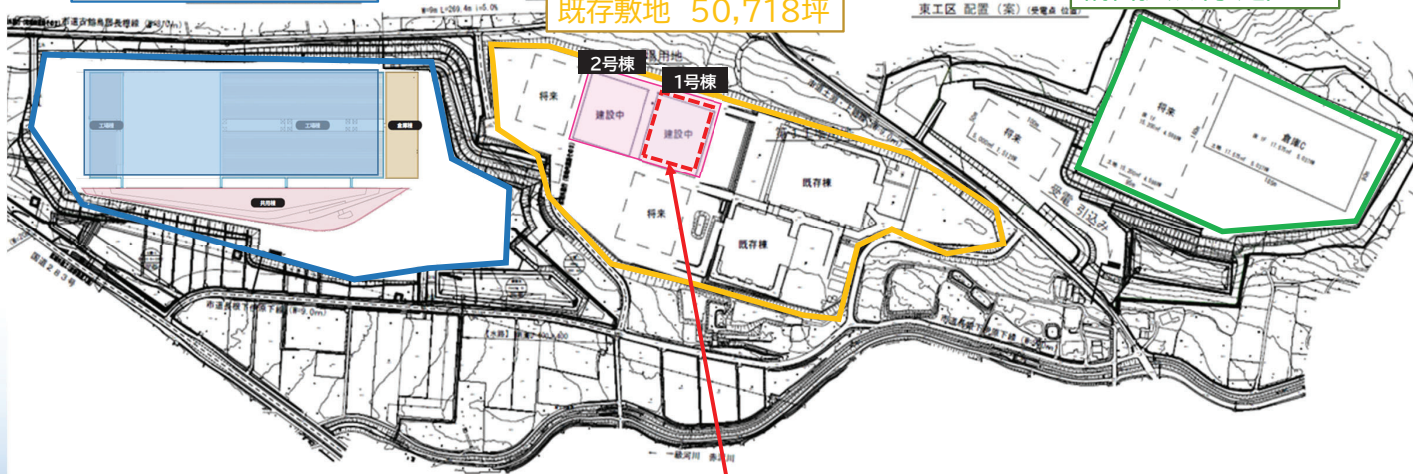
## 遠野サプライヤーパーク概要②



サプライヤーパーク  
(西工区:53,938坪)

既存敷地 50,718坪

東工区 40,610坪  
備蓄拠点(予定)



遠野第2工場 2棟建設中▶2022年末完成予定  
※1号棟をサプライヤー用として暫定活用

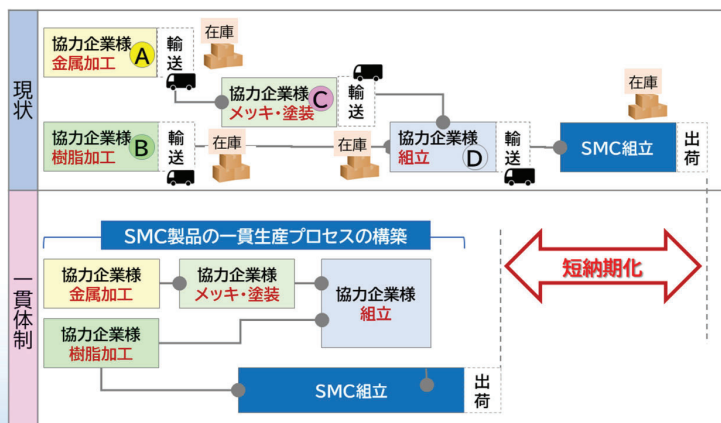
# 遠野サプライヤーパーク概要③



## 生産合理化のための協業体制強化

市場ニーズに対応した短納期な生産体制の構築

- QCDにおけるSMCとの連携強化  
品質(Quality)、価格(Cost)、納期や入手性(Delivery)
- サプライヤーパークによる一貫生産体制
  - ・品質改善、コスト低減、在庫適正化、製造リードタイム削減による競争力の強化
  - ・測定器、物流網などのインフラの共同活用
- 生産合理化のためのDXを推進
  - ・製造現場のエッジコンピューティング(設備)とインフラストラクチャー(IT環境)の共同活用
  - ・サプライヤーの生産活動改善に向けての改善支援
  - ・データドリブンでの目標設定とPDCAサイクル運用



Supporting Automation

# 2022年3月期 第4四半期

## 決算説明会配付資料

### SMC株式会社

取締役 執行役員 経理部長 太田昌宏

2022年5月17日

### 損益計算書推移

	20年度		21年度		21年度		前年度比		21年度		21年度		前四半期比	
	実績		業績予想		実績		(20年度 vs 21年度)		3Q単独		4Q単独		(21/3Q vs 21/4Q)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比	金額	率	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	5,521		7,150		7,273		1,752	31.7%	1,837		1,849		12	0.7%
売上原価	2,863	51.9%	3,550	49.7%	3,635	50.0%	772	27.0%	914	49.7%	959	51.9%	45	5.0%
売上総利益	2,658	48.1%	3,600	50.3%	3,638	50.0%	979	36.9%	923	50.3%	890	48.1%	-33	-3.6%
販売管理費	1,124	20.3%	1,320	18.4%	1,359	18.7%	234	20.9%	351	19.2%	363	19.6%	11	3.3%
営業利益	1,533	27.8%	2,280	31.9%	2,278	31.3%	745	48.6%	571	31.1%	526	28.5%	-45	-7.9%
経常利益	1,718	31.1%	2,410	33.7%	2,729	37.5%	1,011	58.9%	695	37.9%	773	41.8%	77	11.1%
当期純利益	1,217	22.1%	1,750	24.5%	1,929	26.5%	712	58.5%	487	26.5%	539	29.2%	52	10.7%
期中平均為替レート														
ドル	106.12		111.50		112.39		+6.27	5.9%	113.68		116.35		+2.67	2.3%
ユーロ	123.72		130.50		130.55		+6.83	5.5%	130.03		130.39		+0.36	0.3%
人民元	15.67		17.40		17.51		+1.84	11.7%	17.77		18.31		+0.54	3.0%
設備投資	274		800		834		560	204.3%						
減価償却費	185		215		205		19	10.6%						
研究開発費	208		225		234		25	12.4%						
社員数	20,619		21,100		21,620		1,001	4.9%						

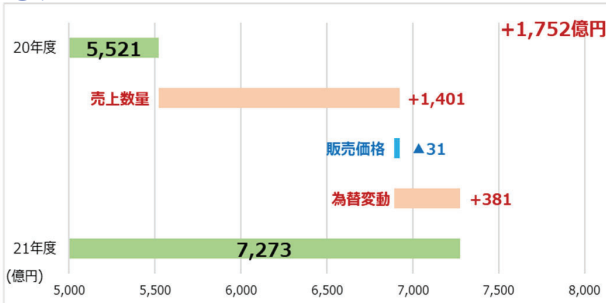


## 【20年度 vs 21年度】売上高・営業利益増減要因



### ①売上高

(単位：億円)



#### < 売上数量増減 > 前年度比25%増加

中華圏+379	電機+47%
日本+330	機械+34%
北米+239	自動車+22%
欧州+226	食品+21%
他アジア+207	医療+21%
	その他+32% (業種:受注ベース)

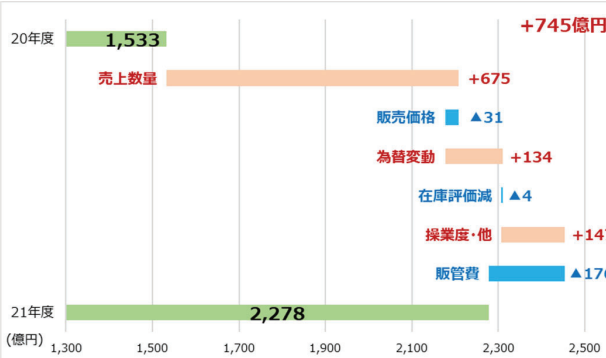
#### < 販売価格 > 年間▲0.4%

日本▲42 (▲2.3%)、海外+10 (+0.2%)

#### < 為替変動 > 前年度比7%増加

中華圏 (人民元中心) +203、北米 (米ドル中心) +62、他アジア (韓国/台湾) +55、欧州 (ユーロ中心) +50

### ②営業利益



#### < 為替変動 >

円安による輸出採算向上、海外子会社P/L換算利益増

#### < 在庫評価減 >

部品在庫の積み増しによる在庫回転率低下  
⇒若干の評価減を計上

#### < 操業度 >

原材料費・労務費の増加を、生産物量増加による操業度改善にて吸収し原価率改善

#### < 販管費 >

人件費+75、運送費+27、販売手数料+12

SMC株式会社

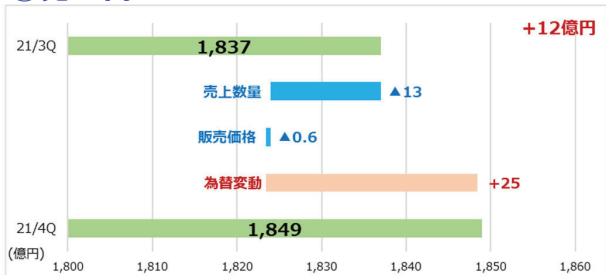
3

## 【FY21/3Q vs FY21/4Q】売上高・営業利益増減要因



### ①売上高

(単位：億円)



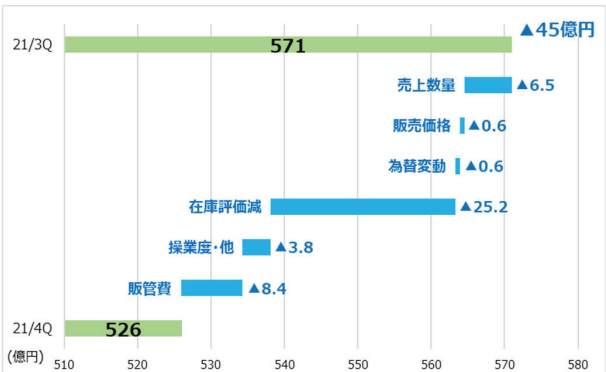
#### < 売上数量増減 > 3Q比1%減少

欧州+48	医療+9%
北米+20	電機+6%
他アジア▲8	自動車+4%
日本▲30	食品+3%
中華圏▲43	機械+0%
	その他▲1% (業種:受注ベース)

#### < 為替変動 > 3Q比1%増加

中華圏 (人民元中心) +13  
他アジア (SGドル中心) +6  
北米 (米ドル中心) +5

### ②営業利益



#### < 在庫評価減 >

部品・原材料調達難への対処として在庫を戦略的に積み増し  
⇒部品の在庫回転率低下のトリガーに抵触し評価減▲25計上

#### < 為替変動 >

3Qと比較し円安で推移+11

#### 子会社在庫に含まれる外貨建未実現利益の控除▲12

⇒子会社にて外部に未だ販売されていない在庫について単体からの輸出時に計上された利益分を連結決算書において控除  
⇒控除において為替レートは期末レートを使用

#### < 操業度 >

生産物量減少による操業度の低下、材料費の上昇

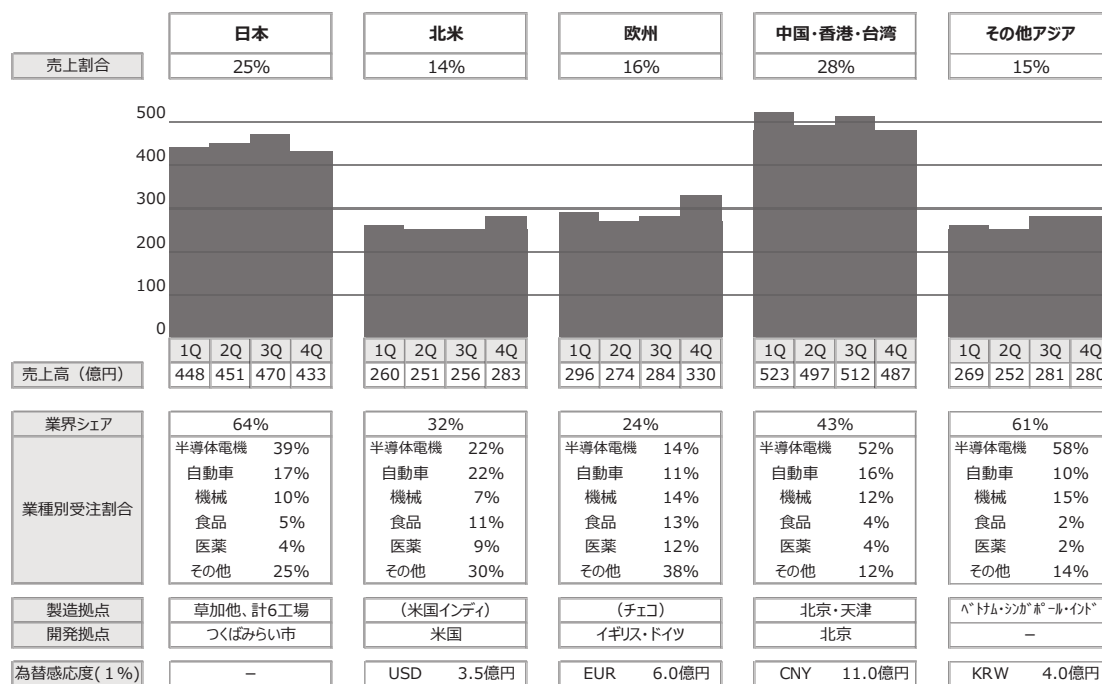
#### < 販管費 >

人件費+4.6、運送費+3.5

SMC株式会社

4

## 【四半期】所在地別売上推移



## シェアの動向

	'17	'18	'19		'20	'21
Rate(¥/\$)	(110.85)	(110.92)	(108.71)		(106.12)	(112.39)
<b>国内</b>	65	65	65		65	64
<b>北米</b>	25	26	26		27	32
<b>欧州</b>	21	22	22		24	24
<b>アジア/オセアニア</b>	48	47	47	中華圏 その他アジア	41	43
					59	61
<b>世界計</b>	36	37	37		38	39
<b>世界計(¥/\$:106.12)</b>	37	37	37		38	39

※ 中華圏:中国、台湾、香港

※ シェアは当社予想。FY21は3Qまでの推定値

# 連結貸借対照表推移



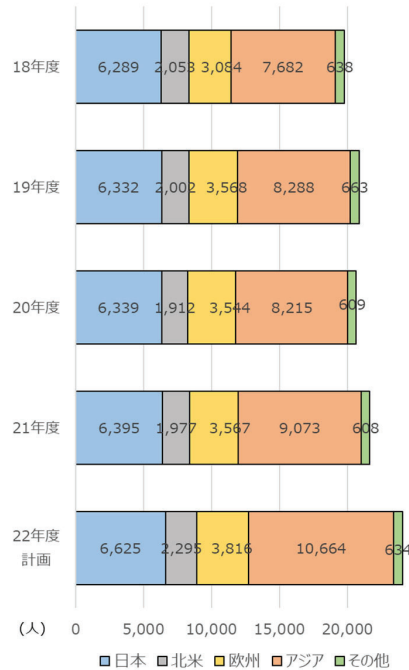
	(億円)			
	20年度	21年度	前年度末比増減	
資産	15,398	17,699	2,300	14.9%
流動資産	10,969	12,584	1,614	14.7%
(内 ①現預金)	(6,292)	(6,848)	(555)	8.8%
(内 営業債権)	(1,749)	(2,119)	(370)	21.2%
(内 ②有価証券)	(112)	(122)	(9)	8.6%
(内 棚卸資産)	(2,487)	(3,035)	(547)	22.0%
固定資産	4,429	5,115	686	15.5%
(内 ③市場価格のある 投資有価証券)	(573)	(438)	(-135)	-23.6%
(内 ④保険積立金)	(1,453)	(1,507)	(54)	3.7%
*換金性のある資産 ①+②+③+④	8,432	8,916	483	5.7%
負債	1,598	2,106	507	31.8%
流動負債	1,180	1,694	513	43.5%
(内 営業債務)	(440)	(621)	(180)	40.8%
固定負債	418	412	-5	-1.4%
純資産	13,799	15,592	1,792	13.0%
自己資本比率	89.4%	87.9%	-1.5	
1株当たり純資産(円)	20,835	23,808	+2,973	
ROE	9.3%	13.2%	+3.9	

	(億円)			
	20年度	21年度	前年度末比	
棚卸資産合計	2,487	3,035	547	
商品及び製品	1,121	1,308	186	
仕掛品	213	255	42	
原材料及び貯蔵品	1,153	1,471	318	
為替の影響			179	
在庫評価減の影響			-10	
<b>実質増減</b>			<b>379</b>	
期中平均月商倍率	5.4	5.0	(-0.4)	
期末月商倍率	4.0	4.6	0.6	
期末為替レート				
ドル	110.72	122.41	+11.69	10.6%
ユーロ	129.76	136.77	+7.01	5.4%
人民元	16.86	19.26	+2.40	14.2%

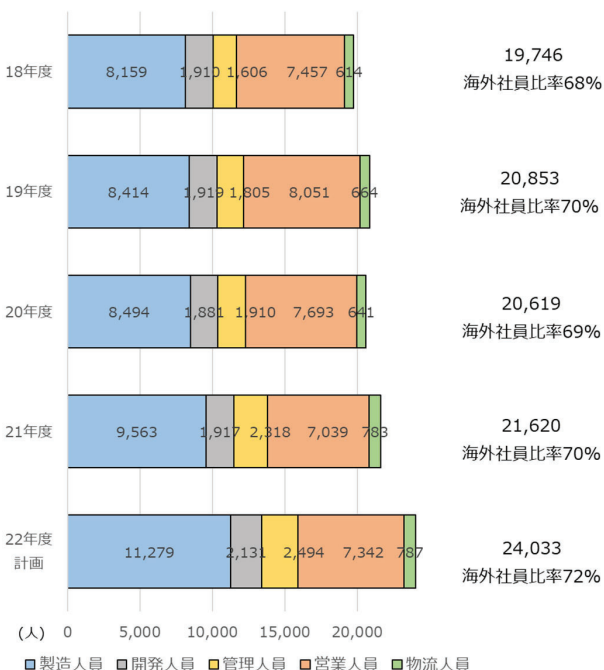
# 【年度】社員数推移



## ①地域別



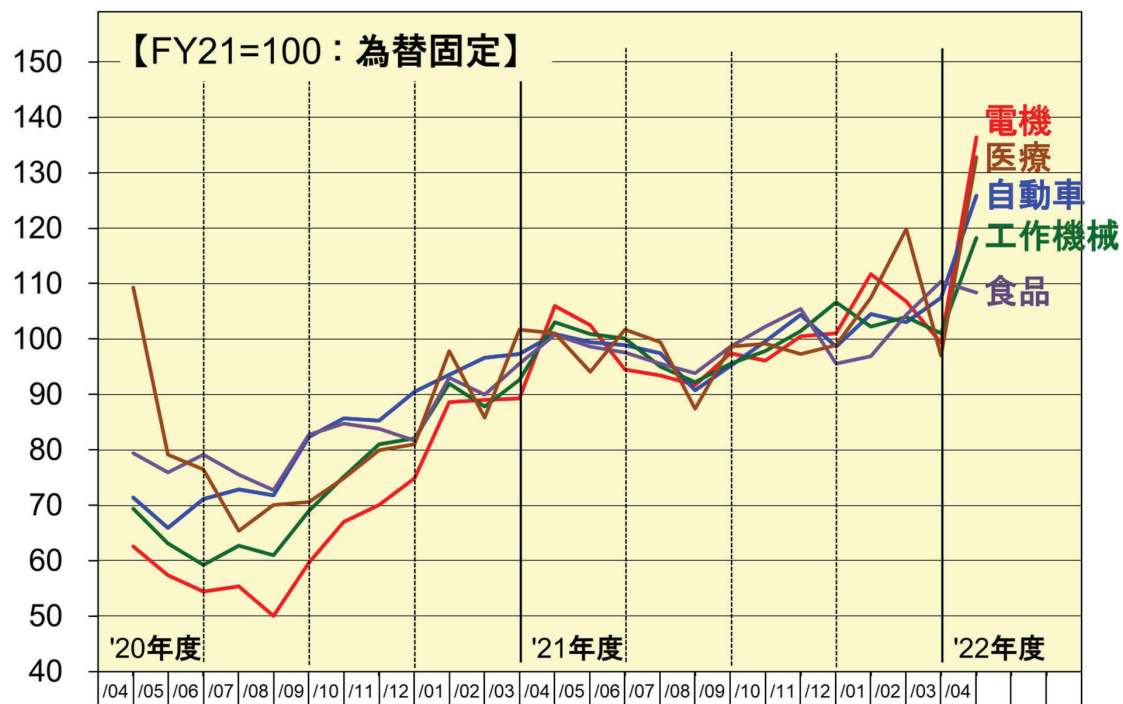
## ②部門別



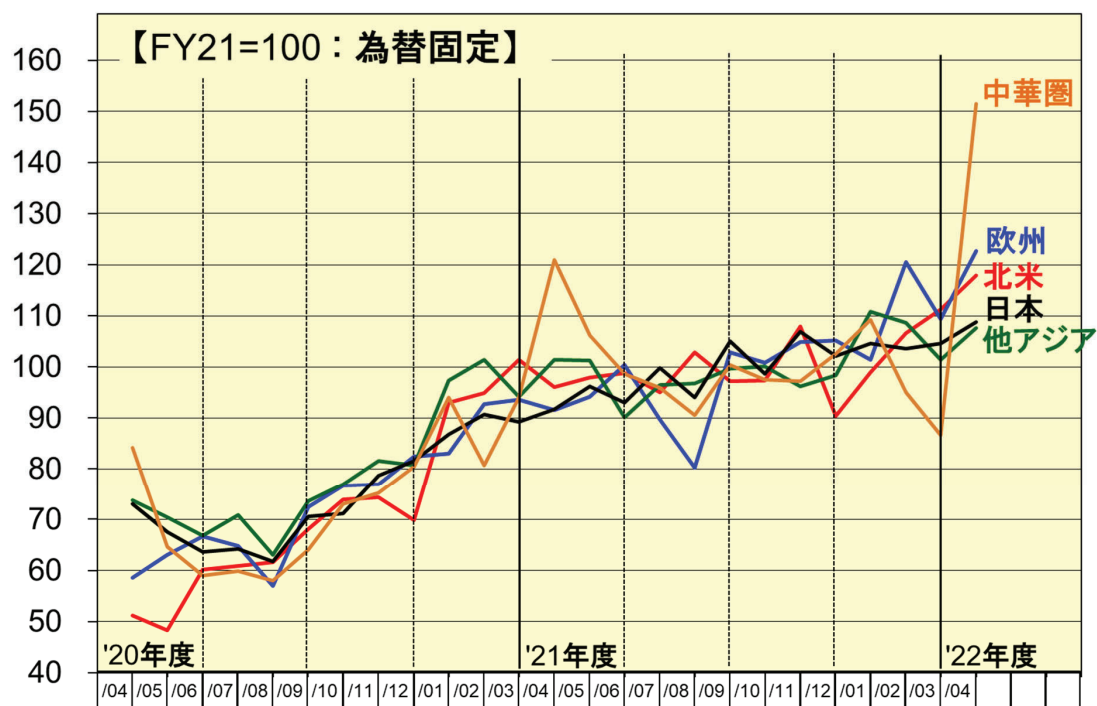
## 足元の受注動向(FY21=100)

	FY21	'21/3Q	'21/4Q	'22/04	4月の状況	
連 結	電機	100	99	106	136	日本・アメリカ・中国が増加傾向
	自動車	100	101	105	126	アメリカ・中国が増加傾向
	工作機械	100	102	102	118	アメリカ・中国が増加傾向
	食品	100	101	104	108	アメリカ・ドイツが堅調に推移
	医療	100	98	108	133	中国が増加傾向
	その他	100	103	102	100	
日 本	100	103	104	109	電機が増加・工作機械が堅調に推移	
北 米	100	98	106	118	電機が増加、自動車・食品が堅調に推移	
欧 州	100	104	110	123	工作機械・食品・医療が堅調に推移	
中華圏	100	99	97	152	3月減少の反動増	
その他アジア	100	98	107	108	電機が増加傾向	
連 結	100	100	104	124		

## 受注推移(業種別)



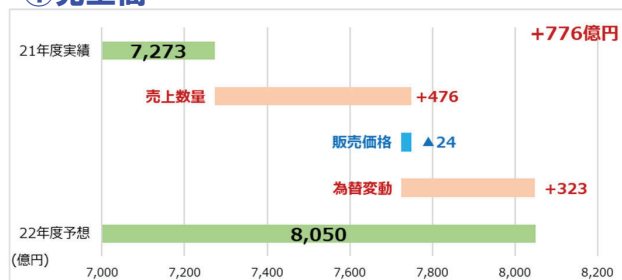
## 受注推移(地域別)



## 年度業績予想

	20年度 実績		21年度 実績		22年度 予想		21年度比 (21年度 vs 22年度)	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比	金額	率
売上高	5,521		7,273		8,050		776	10.7%
売上原価	2,863	51.9%	3,635	50.0%	4,020	49.9%	384	10.6%
売上総利益	2,658	48.1%	3,638	50.0%	4,030	50.1%	391	10.8%
販売管理費	1,124	20.3%	1,359	18.7%	1,480	18.4%	120	8.8%
営業利益	1,533	27.8%	2,278	31.3%	2,550	31.7%	271	11.9%
経常利益	1,718	31.1%	2,729	37.5%	2,650	32.9%	-79	-2.9%
当期純利益	1,217	22.1%	1,929	26.5%	1,880	23.4%	-49	-2.6%
期中平均為替レート								
ドル	106.12		112.39		123.00		+10.61	9.4%
ユーロ	123.72		130.55		133.00		+2.45	1.9%
人民元	15.67		17.51		18.50		+0.99	5.7%
設備投資	274		834		1,200		+366	43.7%
減価償却費	185		205		240		+35	16.7%
研究開発費	208		234		250		+16	6.6%
年間配当(円)/株	500		750		900		+150	

①売上高



(億円)

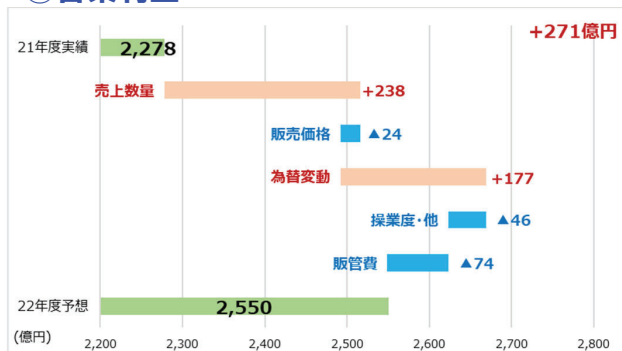
< 売上増減 >

中華圏+167  
日本+121  
北米+90  
欧州+61  
他アジア+33

< 為替変動 >

中華圏 (人民元中心) +127  
北米 (米ドル中心) +106  
他アジア (SGD中心) +60  
欧州 (ユーロ中心) +17

②営業利益



< 為替変動 >

為替を円安で見込んでおり輸出採算向上と海外子会社P/L換算利益が増加

< 操業度・他 >

生産物量増加により操業度は上昇するが、22年度も継続して素材の時価高騰によるコスト増を見込む

< 販管費 >

人件費+36、運送費+19、配送業務費+8、旅費交通費+7

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

そのため、実際の業績はさまざまな複合的要素により、記載された見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、予めご承知おきください。

ご清聴ありがとうございました。